

# リリース ノート

## McAfee Agent 5.0.0

- [このリリースについて](#)
- [新機能](#)
- [インストール手順](#)
- [既知の問題](#)
- [製品マニュアルの検索](#)

### このリリースについて

この資料には、このリリースに関する重要な情報が含まれていますので、ぜひご一読いただくようお願いいたします。

**重要** プレリリース版のソフトウェアは自動アップグレードの対象外です。リリースされたソフトウェア製品にアップグレードするには、既存のバージョンを削除する必要があります。

#### バージョン情報

McAfee Agent 5.0.0 のバージョン情報については、McAfee KnowledgeBase の記事 [KB82105](#) を参照してください。

**重要** McAfee Agent 5.0.0 は、McAfee ePO サーバー 5.1.1 以降でのみ使用できます。5.0.0 の拡張ファイルで前のバージョンの McAfee Agent を管理できますが、前のバージョンの拡張ファイルで McAfee Agent 5.0.0 クライアントを管理することはできません。

#### サポートされる McAfee 製品

対応する McAfee 製品の詳細については、McAfee KnowledgeBase の記事 [KB82101](#) を参照してください。

### 新機能

このリリースには、以下の新機能が含まれています。

#### ピアツーピア通信

更新を取得したり、製品をインストールするには、McAfee Agent が McAfee ePO サーバーに接続する必要があります。これらの更新は、同じサブネット内のエージェントから取得できる場合もあります。ピアツーピア通信の場合、McAfee Agent は同じサブネットのピアエージェントから更新をダウンロードします。これにより、McAfee ePO サーバーと McAfee Agent 間の帯域幅消費が少なくなります。

#### マニフェスト ベースのポリシー

McAfee Agent 5.0.0 を McAfee ePO サーバー 5.1.1 以降と一緒に使用すると、マニフェスト ベースのポリシーを使用できます。これにより、McAfee ePO プラットフォームの拡張性が向上します。このポリシーを使用すると、McAfee Agent は設定の比較や統合を行うためにリソースを使用しません。変更されたポリシー設定だけを McAfee ePO サーバーから取得します。また、エージェント/サーバー間通信ごとに McAfee ePO サーバーが変更ポリシーを計算する必要がなくなります。これにより、ポリシー更新のダウンロードでネットワーク帯域幅が節約されます。

#### McAfee Agent 自己保護

McAfee Agent は、マカフィー VSCore を使用してエージェントの内部資産（データベース、ファイル、フォルダー、レジストリなど）を不正アクセスから保護します。ePO の管理者は、McAfee Agent 自己保護を有効または無効にできます。

#### SuperAgent サポート

McAfee Agent 5.0.0 は、Windows、Linux、Macintosh OS で SuperAgent をサポートしています。

**注意** McAfee ePO Cloud の場合、SuperAgent は使用できません。

#### リモート プロビジョニング

このリリースでは、リモート プロビジョニングで次の処理を行うことができます。

- McAfee Agent の管理モードの変更 – コマンドライン スイッチを使用して、McAfee Agent を非管理モードから管理モードに変更します（これにより、McAfee ePO サーバーにプロビジョニングされます）。

- McAfee ePO サーバー間での移動 – コマンドライン スイッチを使用して、McAfee Agent サーバー間で McAfee ePO の移動を行います。

**注意** McAfee ePO Cloud の場合、リモート プロビジョニングは使用できません。

### 固定接続

エージェント/サーバー間通信 (ASC) を実行するときに、McAfee Agent はキープアライブ接続を使用して、McAfee ePO サーバーとの通信チャンネルを維持します。これにより、McAfee Agent は 1 回の TCP 接続で ASC を完了し、複数の HTTP 要求と応答の送受信を行います。以前のバージョンの McAfee ePO サーバーでは、1 回の ASC で McAfee Agent から TCP 接続を複数回行う必要がありました。この方法では多くのネットワーク帯域幅を消費しました。キープアライブ接続では、必要な帯域幅が少なくなります。

### センサー サービス

McAfee Agent 5.0.0 は、センサー サービスを使用してシステム イベントを追跡し、クライアント システムでアクションを実行します。センサー サービスには 2 つの種類があります。

- ユーザー センサー – オペレーティング システムの API を使用して、クライアント システムにログオンしているユーザーを検出し、ユーザー別ポリシーを適用します。

**注意** McAfee ePO Cloud の場合、ユーザー センサーは使用できません。

- ネットワーク センサー – オペレーティング システムのネットワーク API を使用して、ネットワーク接続の状態を検出し、エージェントの機能 (リポジトリからの更新の取得や McAfee ePO との通信) が必要かどうかを判断します。

### プラットフォーム サポート

McAfee Agent 5.0.0 は、Windows、Linux、Macintosh OS に対応しています。対応オペレーティング システムとバージョンの詳細については、McAfee KnowledgeBase の記事 [KB51573](#) を参照してください。

## インストール手順

McAfee Agent のインストールまたはアップグレードの詳細については、『McAfee Agent 製品ガイド』を参照してください。

## 既知の問題

この製品リリースの既知の問題については、McAfee KnowledgeBase の次の記事を参照してください。 [KB79397](#)

### 重大な問題

- McAfee Agent 5.0 が存在すると、Host Intrusion Prevention 8.0 (パッチ 4 以前) の特定のポリシーで問題が発生する場合があります。この問題の詳細については、McAfee KnowledgeBase の記事 [KB82869](#) を参照してください。
- McAfee Agent 5.0 にアップグレードできるのは、McAfee Agent 4.6 以降からだけです。この問題の詳細については、McAfee KnowledgeBase の記事 [KB82897](#) を参照してください。

## 製品マニュアルの検索

製品のリリース後は、マカフィー のオンライン ナレッジセンターに製品情報が掲載されます。

### タスク

- マカフィー ServicePortal (<http://support.mcafee.com>) に移動して、[ナレッジセンター] をクリックします。
- 製品名を入力してバージョンを選択し、[検索] をクリックしてマニュアルのリストを表示します。